

第67回環境医学研究所
第58回研究推進委員会合同セミナー

老化脳に蓄積する非ヒト型糖分子 の発見に基づく認知症対策



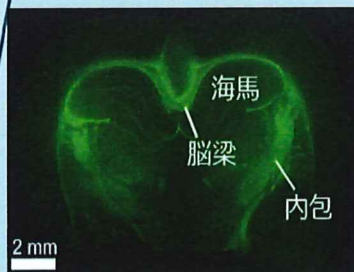
南 彰 先生

(静岡県立大学大学院 薬学研究院
生化学講座 講師)

- 近年のアミロイドを標的としたアルツハイマー病治療薬の治験から、認知症対策には早期からの予防が効果的であることが再認識されている。演者らは、認知機能における糖鎖末端に結合したシアル酸の役割を検討する中で、神経障害性のある非ヒト型糖分子がヒトの老化脳に蓄積することを見出した。この非ヒト型糖分子は牛肉などに豊富に含まれており、食餌由来のものが脳に移行することによってシナプス可塑性の減弱やアミロイドの凝集を引き起こすことが分かってきた。本セミナーではこれらの知見に加えて、非ヒト型糖分子に着目した早期からの認知症対策について紹介する。また、演者らは糖鎖の機能解析ツールを開発し、新たな視点から脳や膵臓、皮膚などにおける糖鎖の機能解明に取り組んでいる。これらの取り組みについても併せて紹介したい。

【参考文献】

Minami et al., Int. J. Mol. Sci., 22 (6), 3187 (2021)
Minami et al., Sci. Rep., 11, 3302 (2021)
Minami et al., Sci. Rep., 10(1), 5198 (2020)



図：糖鎖分解酵素（シアリダーゼ）
の酵素活性イメージングプローブ
によるラット脳の染色

(環境研HP)

日時：2023年10月20日（金）
（会場）18:00～19:00

順天堂大学医学部附属浦安病院8階
環境医学研究所カンファレンスルーム



Zoom配信併用

環境医学研究所

共催：順天堂大学大学院医学研究科

* 10月19日(木)正午までにお申込ください
参加申込先：kanken@juntendo.ac.jp



(大学院医学研究科)